



いせん

第26号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 (有)奄美新生社印刷

伊仙町議会だより



完成した伊仙小学校（通気や採光面など省エネにも配慮した造りになっている。）

目 次

- 伊仙町議会構成表…………… P 2
- 平成22年度当初予算関連…………… P 3～4
- 議案・陳情・請願一覧…………… P 5～6
- 町内各事業箇所研修説明会…………… P 7
- 一般質問…………… P 8～10
- 議員派遣予定表・議会のうごき…………… P 11
- 米軍普天間基地徳之島移設案反対決議…………… P 12

伊仙町議会構成表

〈議会運営委員会〉
 ◎美島盛秀 ○清水喜政男
 琉 理人・前 徹志・伊藤 一弘
 ※◎印は委員長 ○は副委員長



第三十一代議長 常 隆之

〈徳之島地区消防組合議員〉
 永岡 良一・前 徹志・永田 誠

〈徳之島地区介護保険組合議員〉
 琉 理人・榊山 一・佐藤 隆志

〈議会広報委員会〉
 ◎美島盛秀 ○清水喜政男
 琉 理人・前 徹志・伊藤 一弘
 ※◎印は委員長 ○は副委員長



副議長 伊藤 一弘

〈徳之島愛ランド広域連合組合議員〉
 上木 勲・明石 秀雄・福留 達也
 ※ この広域連合組合議会は、徳之島愛ランド広域事務組合が運営する、食肉センター・火葬場・クリーンセンターの業務を監視及び審議する議会です。

〈議会選出監査委員〉
 榊山 一

総務文教厚生常任委員会



委員長 美島 盛秀



副委員長 前 徹志



上木 勲



杉屋 廣規



榊山 一



永田 誠

委員数 計7名 (※議長含む)

経済建設常任委員会



委員長 清水 喜政男



副委員長 琉 理人



永岡 良一



明石 秀雄



佐藤 隆志



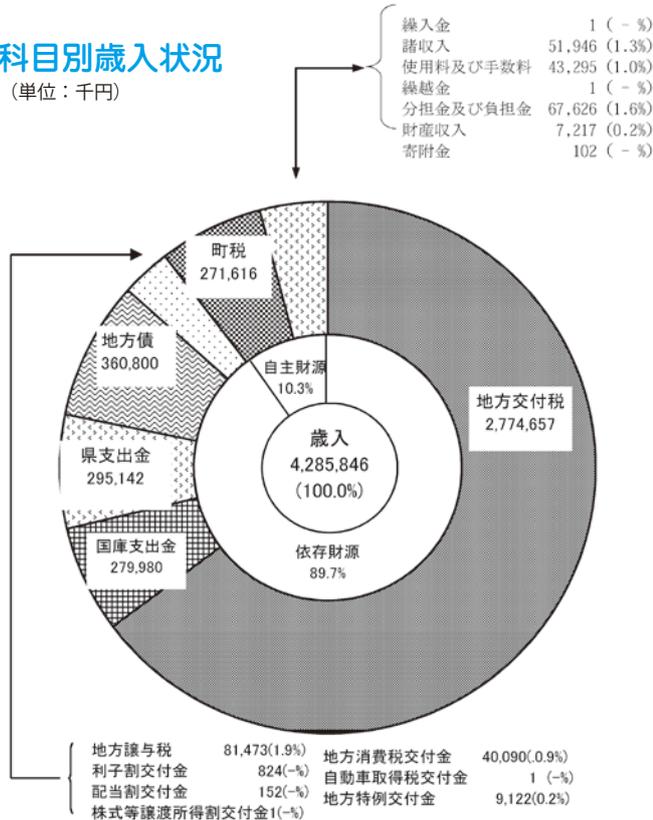
福留 達也

委員数 計7名 (※副議長含む)

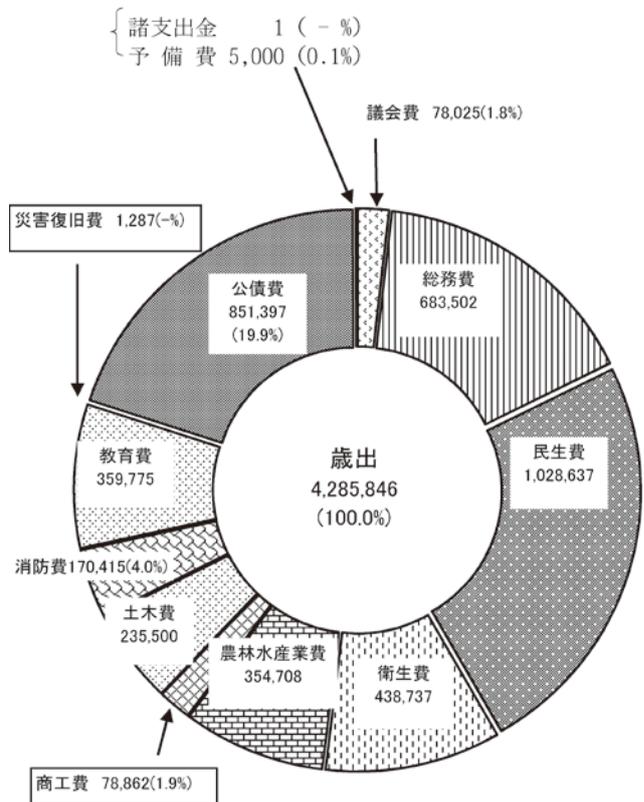
平成22年度一般会計予算 42億8,585万円

(前年度と比較すると11.4%の減です。)

科目別歳入状況 (単位：千円)



科目別歳出状況 (単位：千円)



一般会計性質別歳出内訳 (単位：千円、%)

科目	予算額	構成比	科目	予算額	構成比
1 人 件 費	1,164,978	27.2	5 補 助 費	522,866	12.2
(1) 議員委員等報酬手当	95,738	2.2	(1) 国 及 び 県	336	0.0
(2) 特別職の給与	70,996	1.7	(2) 一 部 事 務 組 合	308,808	7.2
(3) 職 員 給	668,782	15.6	(3) そ の 他	213,722	5.0
(4) 職員共済組合負担金	176,032	4.1	6 普 通 建 設 事 業 費	425,817	10.0
(5) 退職手当組合負担金	152,430	3.6	(1) 補 助 事 業 費	223,100	5.2
(6) 災 害 補 償 費	1,000	0.0	(2) 単 独 事 業 費	140,211	3.3
(7) そ の 他			(3) 県 営 事 業 負 担 金	62,506	1.5
2 物 件 費	385,074	8.9	7 災 害 復 旧 事 業 費	1,287	0.0
(1) 賃 金	73,851	1.7	(1) 補 助 事 業 費		
(2) 旅 費	25,253	0.6	(2) 単 独 事 業 費	1,287	0.0
(3) 交 際 費	700	0.0	8 公 債 費	851,397	19.9
(4) 需 用 費	87,394	2.0	(1) 元 利 償 還 金	849,397	19.9
(5) 役 務 費	25,888	0.6	(2) 一 時 借 入 金 利 子	2,000	0.0
(6) 備 品 購 入 費	5,855	0.1	9 積 立 金	100	0.0
(7) そ の 他	166,133	3.9	10 投 資 及 び 出 資 金	1,560	0.0
3 維 持 補 修 費	12,042	0.3	11 貸 付 金	5,000	0.1
4 扶 助 費	486,744	11.4	12 繰 出 金	423,981	9.9
			13 予 備 費	5,000	0.1
			歳 出 合 計	4,285,846	100.0

平成22年度各特別会計予算です。

(単位：千円)

国民健康保険特別会計予算	1,236,718
老人保健特別会計予算	262
介護保険特別会計予算	878,386
後期高齢者医療特別会計予算	157,866
徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算	76,713
簡易水道特別会計予算	260,247
上水道事業会計予算	89,846
合 計	2,700,038

平成22年度伊仙町一般会計予算他7特別会計予算審査会委員長報告

○ 委員長報告

ご報告を申し上げます。

当、予算審査特別委員会に付託されました、平成22年度伊仙町一般会計予算及び7特別会計予算について、去る3月15日予算審査特別委員会を開きました。

その審査の経過と結果についてご報告申し上げます。

まず、9日の平成22年第1回定例会開会直後に、執行部より予算書の内容について詳細説明を求め、それを受けて15日の審査会の報告です。

まず、一般会計当初予算についてですが、各委員よりそれぞれの質疑があり、財政難の中にあつて予算が有効かつ適正に計画されているか答弁をもとめ審査を行いました。

それを集約すると、歳入において法人税の減収理由、特別徴収税の現年度分・滞納分等の状況など説明が求められ夜間徴収などで対応し、税源確保に努力しているとのことであった。

また、平成22年度から県大島支庁徳之島事務所に県職員2名が配置され徴収体制を充実し、強化することであった。

歳出面においては、委託費関連について職員で出来るところは職員で今後対応していく姿勢を質されました。また、入札においては町内業者育成と、落札率においても今後検討会など重ね各市町村の情報もとりながら新しい姿も考えなければならぬ時代との認識も示されました。

幼稚園の開園の件においては、備品購入関連で長期的展望での計画もあり、議論が集中しました。地方債においては、債務負担行為や広域連合関係予算に於ける将来負担すべき見込み額も併せて質問があり、連結決算額で示されているとおり45億6千万円との事であった。

採決の結果、平成22年度一般会計当初予算については全会一致で承認されました。

続いて、議案第16号 平成22年度伊仙町国民健康保険特別会計予算から議案第22号 平成22年度伊仙町上水道事業会計予算までの7特別委員会の審査であります。

議案第16号 平成22年度伊仙町国民健康保険特別会計予算であるが、歳入において保険税が前年度対比同額であり、保険税に対する熱意が見られない、また滞納繰越金増加の問題で負担が過重であるために税を納められない人が増えていると考えられる現状であるとの質疑がありました。赤字解消に向けた計画を県に出し、平成22年度税率を見直すのかどうかの質疑もありました。

答弁で予算が立てられない状況下で予算編成に望み今後、補正予算等通じ修正し、また、医療費の動向を見ながら修正していきたいとの方針であった。議案第21号 平成22年度伊仙町簡易水道特別会計予算、議案第22号

平成22年度伊仙町上水道事業会計予算に関連し、町外から大規模畜舎建設による原水の安全確保について質疑があり、2重3重の安全策が講じられているとのことや早急に対策を講じるとの答弁であり、償却資産の問題認識や国営ダムの水利用についての今後の協議等必要との質疑答弁が出ました。

採決の結果、平成22年度 伊仙町国民健康保険特別会計予算については、反対討論があり、起立採決の結果、賛成多数で原案のとおり、可決されました。

議案第17号平成22年度 伊仙町老人保健特別会計予算

議案第18号平成22年度 伊仙町介護保険特別会計予算

議案第19号平成22年度 伊仙町後期高齢者医療特別会計予算

議案第20号平成22年度 徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算

議案第21号平成22年度 伊仙町簡易水道特別会計予算

議案第22号平成22年度 伊仙町上水道事業特別会計予算

については、起立採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決することと決定いたしました。

以上で委員長報告を終わります。

平成22年 第1回伊仙町議会定例会 全議案 (会期3/9~17)

番号	議 案 等	採決結果
議案第3号	伊仙町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第4号	伊仙町報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第5号	伊仙町長の給与に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第6号	伊仙町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第7号	伊仙町技能・労務職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第8号	伊仙町企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第9号	伊仙町有機物供給センターの指定管理者の指定	可 決
議案第10号	伊仙町総合計画	原案可決
議案第11号	平成21年度伊仙町一般会計補正予算(第7号)	原案可決
議案第12号	平成21年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第5号)	原案可決
議案第13号	平成21年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第14号	平成21年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第15号	平成22年度伊仙町一般会計予算	原案可決
議案第16号	平成22年度伊仙町国民健康保険特別会計予算	原案可決
議案第17号	平成22年度伊仙町老人保健医療事業特別会計予算	原案可決
議案第18号	平成22年度伊仙町介護保険特別会計予算	原案可決
議案第19号	平成22年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算	原案可決
議案第20号	平成22年度伊仙町徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算	原案可決
議案第21号	平成22年度伊仙町簡易水道特別会計予算	原案可決
議案第22号	平成22年度伊仙町上水道事業会計予算	原案可決
議案第23号	犬田布中学校校舎建設工事1工区請負契約	可 決
議案第24号	犬田布中学校校舎建設工事2工区請負契約	可 決

平成22年 第1回伊仙町議会定例会 請願・陳情一覧

番号	件 名	採決結果
陳情第1号	新たな業務報酬基準制定に伴う、公共建築物の設計等業務発注に係る陳情	文書配布
陳情第2号	改正国籍法に関する陳情書	文書配布
陳情第3号	永住外国人地方参政権付与法案に反対する陳情書	文書配布
陳情第4号	排水路敷設及び一部区間の工事前倒し着工願いについて	採 択
陳情第5号	改正貸金業法の完全施行等を求める陳情書	採 択
陳情第6号	米軍普天間基地徳之島移転反対及び米軍普天間基地の無条件国外撤去を求める陳情書	採 択
陳情第7号	米軍普天間基地徳之島移転反対及び米軍普天間基地の無条件国外撤去を求める陳情書	採 択
陳情第8号	米軍普天間飛行場徳之島移設反対を求める陳情書	採 択
陳情第9号	選択的夫婦別姓制度法制化に反対する意見書の提出を求める陳情書	文書配布
陳情第10号	人権擁護法案の成立に反対する意見書の提出を求める陳情書	文書配布
要望書第1号	町議会議員報酬削減と人員削減への取り組み及び災害避難のハザードマップについて	文書配布
発議第1号	米軍普天間基地の徳之島移設案に反対する決議	可 決
発議第2号	改正貸金業法の完全施行等を求める意見書	可 決
発議第3号	核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の決議について	可 決
発議第4号	離島振興事業の推進に関する意見書	可 決
発議第5号	米軍普天間基地徳之島移転反対及び米軍普天間基地の無条件国外撤去を求める意見書	可 決
発議第6号	米軍普天間飛行場徳之島移設反対を求める意見書	可 決

平成22年 第1回伊仙町議会臨時会 全議案（会期2/8）

番号	議 案 等	採決結果
議案第1号	字の区域変更について	可 決
議案第2号	平成21年度伊仙町一般会計補正予算(第6号)について	原案可決
同意第1号	伊仙町教育委員の選任について	可 決
同意第2号	伊仙町教育委員の選任について	可 決
同意第3号	伊仙町教育委員の選任について	可 決

町内各事業箇所研修説明会を実施

平成22年2月3日から任期がスタートした伊仙町議会。今回は、新人議員が5名誕生し、町政史上初の無投票当選を果たした重責の中、気持ちを引き締め、益々町政発展に尽力すべく、伊仙町の行っている町内事業箇所一円を調査（下記箇所以外にも調査しました。）し、各担当課より詳細な説明が行われました。

そのなかで、各議員より事業実施にあたって町民への説明が十分にされているか、農家所得向上に向けた各関連事業を計画的に行い、その費用対効果などの質疑応答が活発に出されました。



新しいシステムを導入したJA目手久選果場において説明を受ける



全国の食卓へと送られる赤土ばれいしょ



目手久五らん線に関する計画説明を受ける



現在、進行中の畑総現場（第一面縄一期地区）



西部地区の水道供給状況の説明を受ける



農高跡地利用についての説明を受ける

一般質問



榊山議員

《教育行政について》

問 わが町にも少子・高齢化が進み、人口の減少、それに比例して小中学校の児童生徒も年々少なくなっており、ほとんどの学校が極小規模や複式学級になっており、教育環境の向上や財政問題の観点から、適正な学校数の再編整備は考えられないのか、町長に問う。

答 少子・高齢化によりまして、伊仙町においても、ご指摘のとおり、子供達が激減しております。

この8年間、何回か、この学校の統合について議論してまいりました。

その間、統合が非常に現実的な状況になったときもありましたけれども、伊仙町が去年の1月に特殊出生率日本一ということ、子供達が確かに増えております。

例えば今、この6年間、出生数が微増という形で増えておりますので、確かにこの小規模校の複式学級とか、そういう問題に関しまして、いろいろご意見がありますけれども、現在のところ、いろんなアンケート等も取りまして考えていった場合には、子供達が増えていくので

あれば現状のままを選択した方がよいのではないかと思っております。

その理由といたしましては、例えば、この各小規模校が、閉校・統合という形になった場合、その集落は非常に活力が失われていくと、いろんな行事等も衰退していくというのが全国的な学校統合のあった地域の現状だと認識をしております。

この問題には、メリット、デメリットがありますけれども、伊仙町がこれから人口増加を目指していくことを今期スローガンに掲げましたので、今後ともいろんな形での定住促進を進めていきながら、この統合ということはあるべく考えない方向でいきたいと考えております。

《建設行政について》

問 世界的経済不況の影響で、完全失業率も5%台と悪い水準で推移している現状です。

この数字は国内の平均値であり、地方及びわれわれ離島においては、これ以上の数値になると思われています。

政権交代により、土地改良事業の大幅カットにより、徳之島事務所農村整備課発注工事が大幅に減少すると思われれます。

また、伊仙町でも普通建設事業費が21年度予算より減少しており、雇用の悪化が危ぶまれますが、補正予算等で建設事業費を増やす考えがあるのか、町長に問う。

答 ご指摘のとおり、土地改良事業が奄振で当初の約半減とい

う形になりました。それだけに雇用には大変重要な問題を提起しております。

今後、県・国とも交渉をしながら、奄振事業の中で土地改良事業がアップできるような新しい仕組みが、できないかどうか、ということ強く要望していかねければならないと思っております。

国が、今回示しました農水事業による1、500億円の全国への交付金の自身が未だはつきりしない状況であります。

鹿児島県への配分がどのくらいになるかも分かりません。

その鹿児島県の配分の中で土地改良事業ができるかどうかということも不透明な状況でありますけれども、いろんな県単事業等の優先順位上位で、できるように強力に要望してまいりたいと思っております。



美島議員

《人口の増加する町と農業生産額50億円達成について》

問 定住促進計画はあるのか。どの様な取り組みをしていくのか。

答 定住促進条例ができないか検討中ですが、町独自の政策は定住促進に結びつけてまいります。

過疎地域集落整備事業を活用して4棟8戸、地域活性化経済危機対策事業で4棟6戸の住宅整備を実施し、空き家対策で8戸のうち6戸が入居しました。今後、住環境整備でUターン、Iターン者を含め定住促進につなげていきます。

農業生産額50億円達成目標においても雇用対策として、新パッケージ事業、地域雇用創造実践事業、ふるさと雇用再生特別基金事業、緊急雇用創出臨時特別金事業等を活用して人材育成や、雇用の場の創出また、雇用の確保に努めてまいります。

問 国勢調査によって、5年間の交付金額が決定するが、1人当たりの平均額はいくらか、人口増への政策はあるか。

答 平成17年度国勢調査の人口が7、225人で、平成21年度の地方交付税が27億6、003万7、000円です。1人当たり38万円となります。Iターン、Uターンの定住促進を図るために子育て支援、雇用対策、所得向上、住環境の整備を行ってまいります。

問 合計特殊出生率が全国1位であるがその反面、母子家庭、父子家庭が増加傾向になってないか、それぞれの件数は何件か、また生活保護受給世帯が増えているか。

答 母子家庭、父子家庭ともに増加傾向にあります。母子家庭19年度85世帯、20年度98世帯、21年度111世帯です。父子家庭が19年度54世帯、20年度84世

帯、21年度84世帯です。生活保護世帯においては、19年度が211世帯303人、21年度が227世帯の293人とほぼ横ばいです。

問 政権交代による奄振予算の大幅削減は、農業政策さらには、農家所得向上にとつては、大打撃だと考えられるが、今後の見通しと計画の見直し等はあるのか。

答 公共工事が縮減したということで、雇用の場が失われていきますし、農業用水ダム建設が来るのが遅れることは農家の意欲も殺ぐこととなりますので、県や国に強く要望してまいります。

《まちづくり事業について》
問 ほーらい館の12月、1月2月の利用客数と収支はどうなっているのか。

答 12月624名、1月662名、2月677名で運営費が1億817万4000円となっております。

問 直売所「百菜」の12月、1月2月の収支はどうなっているのか。

答 12月の売上げが501万5348円、支出が507万2843円、収支が5万7495円の赤字です。1月の売上げが496万9175円。支出の合計が471万7777円、収支が25万1398円の黒字です。2月の売上げが519万6906円です。4月からの累計で236万9000円くらいの赤

字です。

問 食育、フードマイレージ、地産地消(商)への取り組みについての計画はどうなっているのか。

答 学校教育では、食育の年間指導計画を作成することが義務づけられておりますので、小学校では、年間100時間以上、中学校では、10時間以上食育に関連する指導を実施しています。フードマイレージと地産地消(商)は関連性があり、いかに推進していくかが「百菜」の役目であろうと考えています。

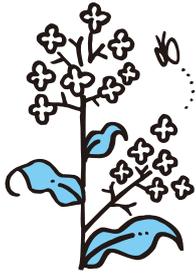
《農業高等学校跡地利用について》

問 跡地利用については、3月末までに計画を立てて、報告することのことでしたが、どうなっているのか。

答 県も柔軟になってまいりまして、無償譲渡する前に色々な計画等でも、無償貸付をしなから進めていくことになりました。

宿泊施設や歴史民俗資料館、農産物加工施設等、利用計画を立てて、提出して協議を進めてまいります。

鹿児島大学、鹿児島工業クラブ、伊仙町三者で包括的協定を締結する見込みになっており、今後取り組んでまいります。



杉並議員

《施政方針について》

問 「政争から政策の町へ」の転換を語られています。どのような政策か説明を求めます。

答 これからの伊仙町は、イメージを大きく変えていかなければいけないと思っております。政策を例えば、町職員、町民も含めた皆の意識改革が重要であると思っております。

更に、「もてなしの町」ということを私は度々申し上げますけれども、それはこの伊仙町に行きたいと、行ってみたいと、あの町に行けば長生きができるんだと。その為に課題となっております。その「ほーらい館」健康増進センターを立ち上げて、メタボリックの改善も明らかになっており、若い人たちの早世も減ってきております。

《平日・夜間・土日の議会開催について》

問 議会を夜間、土、日に開催することにしています。どちらの議会の自らの判断ではございませんが、やはり町長はじめ説明員の皆様の御出席をいたただかなければなりません。十分な審議をつくせないことから町長の考えを問う。

答 議会の土曜、日曜の開催に關しましては、議会事務局の方が去年から町民の方々に議会の

傍聴を促していますが、なかなか忙しいということに参加できない状況になっております。伊仙町議会の方々が、そのような意向であれば、私はしっかりと前向きに検討していきたいと思っております。



明石議員

現在、伊仙町を取り巻く情勢は、多くの課題が山積しており、大変厳しい状況にあります。国政の先行きが混沌としている中で、地域、とりわけ我が伊仙町における雇用、医療、福祉など、町民の身近な問題を解決することが重要になってまいりました。

歴史的な政権交代があり、民主党を中心とする政権が発足いたしました。伊仙町に取りまして、他人事ではないと思っておりますが、どう受け止めているのか。どう、政権と信頼関係を築いていくのか。以下、徳之島ダムと畑かんの早期完成、宿泊施設の必要性、大分県姫島村のワークシェアリング制度、職員の人事管理、定員管理の問題等について、農業所得50億達成について質問をいたしました。いづれにしても、明確な答えはなかったと思えます。その中で、民主党政権を一定の評価をした上で、農業土木費減が奄美に取っ

て、大打撃になるとの事でしたが、その解決策については、何にも示されなかった。また、新政権との信頼関係については、社民党の阿部知子先生、国民新党の亀井先生との関係構築したい旨回答がありました。

今回の一般質問を通して、的確な答弁がいただけなかった。で、ひきつづき次の議会で質問をしたいと思えます。



琉議員

《綱紀粛正について》

問 過去8年間取り組んだ課長の成果が、職員全員に内容が把握され、町民からの苦情処理や、職員の不正防止の対策は行っているのか。

答 組織というものは、長い間に、必ず制度疲労を起してまいります。過去8年間毎週行ってきた。町民本位の政治、町民へのサービスが基本であり、誠心誠意努めていく指導を行っています。時には、行政上の問題等で、食い違いが出た。りする時は、即対応説明責任という基本で行い、不正防止対策においては、縦走的な指導、町長、副町長段階の指導で、再三再四繰り返し指導してまいります。

《産業経済について》

問 農業生産額50億円達成について具体的な施策はどうなっているのか。

答 現在、約40億円を見ています。10億円アップに向けて高収益品目、単収アップ、作付け体制を充実させ、年次的に土壌改良事業を行い、農協、普及所、役場経済課と連絡をとって技術指導に努め、50億円達成に向けて取り組まします。

《教育行政について》

問 障がい児教育と幼稚園の延長保育と学童保育については、9月議会でも取りあげましたが、その後はどうなっているのか。また、義名山公園整備で球技場を農高義名山農場跡地につくれないのか。

答 養護学校の高等部の徳之島分教室につきましては、南三島の教育長が連携して県教委へ必要性を訴えており、その後、たぐさんの署名が提出され、平成22年度から与論高校でも一教室での訪問指導が受けられる予定であります。今後、徳之島三町が連携をとって、県へ働きかける必要性があると考えています。また、特別支援学級の介助についても、平成22年度は、伊仙小学校に学習支援員と介助員の配置も検討致しております。農高義名山農場跡地に球技場の件に關しましては、平成24年度・25年度の追加事業として検討してまいります。

《福祉行政について》
 問 医療機関での寝たきり患者の高齢化問題の現状や退院後の介護施設への入所と、介護現場の実状と、特別養護老人福祉施設の増床についてどう考えているのか。

答 町内での特別養護老人施設の入所待機者の実態については、130人くらいの待機者がいるので、仙寿の里の方で増床計画の申請をしていますので、認可が出れば、町の介護計画に載せてまいりたいと思っています。

《住宅整備について》

問 伊仙町住宅マスタープラン計画の現状と、核家族化による住宅整備のあり方と、二世帯、三世代の古い歴史の中での家族のあり方について、住宅建設も抜本的かつ基本的に見直す必要はないか。

答 平成14年から21年までの8年計画で仲里団地、耳付団地、面縄船蔵団地に合計48戸計画し、46戸が完成し、ほぼ目標達成し、平成21年度には農高住宅その他合計14戸がリニューアル改修工事を実施しております。また、核家族化が進みすぎたために、少子化や独居老人の孤独死等のいろんな地域での問題が出ております。総務省の過疎地域集落整備事業等を活用して、古い歴史的な家族のあり方についての住宅建設も前向きに取り組んでみたいと思っています。



上木議員

《施政方針中の歴史的な快挙の表現について》

問 議員選挙も前例のない「無投票選挙」という歴史的な快挙でありました。」との見解だが、結果的現象と冷静に受け止めるべき事ではないか。

答 議会制民主主義を否定しようとか、そこまで深くは考えておりませんでした。次回から政策論を堂々と公約して次元の高いレベルでの選挙が行われる事を期待したいと思っています。

問 議員と町長を直接選挙する、二元的代表制に基づく議会制民主主義の最高責任者の町長として不見識、不適切な表現だと考えられる「快挙」の語句を削除できないか。

答 「快挙」という字区表現で無投票が最善の事と誤解される可能性もありますので、「1月24日実施の伊仙町議会議員選挙も前例のない無投票選挙」という歴史的な選挙でありました。」という事でよろしいと思います。

《町民の皆様のご理解とご協力を切に望むについて》

問 議会に理解、協力を求める文言は一言もなく、最後には「町議会と力を合わせて全力を尽くしていきます。」と一方的に決め

つけてあるが、議会軽視ではないか。
 答 町議会の理解と協力をお願いしますが、この肝心の項目が抜けておりました。全く議会軽視の思いはありません。次回の施政方針の中では、必ず付け加えてまいりたいと思います。

《県道拡幅工事の見直しについて》

問 県道拡幅工事の解体撤去作業も進み、5年にもなろうとするのに、放置されたまま、殺風景で危険極まりない、どういう現況にあるのか。

答 役場前から西伊仙までの工事計画については、22年、23年度で着工するとの事です。一部区間は、現在休止区間となっております。2、3年目処が立たないとの答えでした。去年の暮れに県土木部長に早期着工をお願いしたところでした。

問 県の所管担当者には、現状報告会開催を要請できないか。役場から東方面の県道拡幅計画と町内を貫く県道の全線完了見通しを問う。

答 説明会については、議会閉会后、早速手続きを取ります。役場前から東側の県道拡幅工事については、新規事業の事業採択が難しい状況にあつて目処が立たないという事であり、現在の1期工事が終了後に計画を考えたいとの回答であります。

徳之島三力町議会議員大会
 (伊仙町会場)開催される

徳之島三力町議会議員連絡協議会(会長 常 隆之 伊仙町議会議員)主催の議員大会が2月26日、徳之島交流ひろば「ほーらい館(癒ていなホール)」で盛大に行われました。

各町2年の持ち回りで行われたこの大会も、平成22年度からは徳之島町へと引き継がれることとなり、今大会において、5月19日に大和村で開催される第54回奄美群島市町村議会議員大会への提出議題も承認されました。

今回は、徳之島町から提出議題の当番となっており、提出議題は「緊急用ヘリポート設置について」であります。

また、この大会に来賓として大島郡選出の鹿兒島県議会議員 禧久伸一郎 氏から県議会における陳情関係や主な審査事項の報告が行われ、各町議会へ共通認識を促していました。

大会終了後には、議員研修の一環として、大島支庁総務企画部長 伊喜 功 氏(犬田布出身)による「徳之島の持続的発展に向けた課題及び奄美地域将来ビジョン(案)のポイントについて」、鹿兒島県町村議会議長会 三原 誠 氏による「町村議会の当面の課題について」と題して、それぞれ講演を戴きました。



提出議題を読み上げる徳之島町議会 藤井議員



県議会における審査報告をする禧久県議

平成22年度 議員派遣予定表

派 遣 期 間			派遣目的及び派遣先	派遣議員
年	月	日		
22	4		大島郡町村議会議長会（奄美市）	議 長
		2 6	県政説明会・県庁奄美会員との合同研修会（鹿児島市）	議 長
	5	1 3	県下常任委員会別研修会（鹿児島市）	全議員の半数
		1 9	奄美群島市町村議会議員大会（大和村）	全議員
			各種協議会総会（奄美市）	議 長
	7	29,30	常任委員長研修会（霧島市）	常任委員長・議 運委員長・局長
	8	6	市町村政研修会（鹿児島市）	全議員の半数
		25・26	議会広報研修会（全国）	広報編集委員
	9	2	議会広報研修会（鹿児島市）	広報委員
	1 1	1 8	大島郡町村議長等研修会（奄美市）	議 長
	1 1		議長・副議長研修会（奄美市）	議長・副議長
	1 1		常任委員長研修会（奄美市）	
	1 1	16・17	離島議長大会（16日）議長全国大会（17日）	
23	1	2 6	県下町村議会議員研修会（鹿児島市）	全議員の半数
	2	17・18	議会広報研修会（鹿児島市）	広報編集委員
	2	中旬	大島郡正副議長会及び市町村長、議長合同会（奄美市）	議長・副議長
		2 3	県下町村議会議長会定期総会（鹿児島市）	議 長

※ 派遣日が空欄になっている箇所については未定（県議長会資料 2 月 23 日）

議会のうごき

平成22年1月

4日 仕事始め

5日 伊仙町成人式（ほーらい館）

6日 出初め式（伊仙小学校）

15日 ばれいしよ選果場落成式（目手久選果場）

19日 伊仙町議会議員選挙告示（無投票確定）

21日 亀田興毅祝賀会（ほーらい館）

26日 議会議員研修会（鹿児島市）

28日 改選議員懇談会（議会委員会室）

2月

2日 伊仙町議会議員任期満了

5日 第1回伊仙町臨時議会告示

8日 第1回臨時議会（改選後初議会）

9日 大島郡植樹祭（ほーらい館）

17日 大島郡市町村議会議長会（奄美市）

19日 徳之島三力町議会議員連絡協議会役員会（ほーらい館）

関西徳州会徳之島表敬訪問団歓迎会（徳之島町）

22日 伊仙町総合計画審議委員会（伊仙町役場）

23日 第61回定期総会（鹿児島市）

26日 徳之島三力町議会議員大会（ほーらい館）

28日 長寿・子宝シンポジウム（ほーらい館）

3月

1日 第1回伊仙町定例議会告示

3日 議会運営委員会（議会委員会室）

4日 改選後に伴う町内各事業箇所研修説明会（町内）

9日 第1回伊仙町定例議会

16日 町内各中学校卒業式

24日 町内各小学校卒業式

29日 第4回自衛隊へり慰霊祭（徳之島町）

米軍普天間基地の徳之島移設案に反対する決議

奄美群島は、第二次世界大戦後に日本本土から切り離され、住民の意思を問うこともないまま米国軍政下に置かれることとなったが、群島民は真の思いを伝えるべく、実に99.58パーセントにも上る日本復帰の署名運動を展開するとともに、十数回にも及ぶ郡民総決起大会・断食祈願も行った。

そのような郡民の日本復帰への強く熱い想いを訴えた結果、昭和28年12月25日に奄美群島は悲願であった日本復帰を遂げ、今日に至っているものである。

昭和29年の奄美群島復興特別措置法制定以来、今日の奄美群島振興開発特別措置法に至って、「基礎条件の改善並びに地理的及び自然的特性に即した奄美群島の自立的発展並びにその住民の生活の安定及び福祉の向上に資する」という目的の下、社会的基盤整備も進み、農林水産業の発展にも力を入れている現状と併せ、貴重な固有動植物の宝庫である奄美群島全体で世界自然遺産登録を目指し、官民挙げて尽力している中、今日、米軍普天間基地の移設先として徳之島を有力視する案が何の前触れもなく報道されたことに、群島民は大きな衝撃を受け、非常に不安に感じている。

このように、480ヘクタールにも及ぶ普天間基地の移設先として徳之島が浮上した問題は、決して徳之島一島だけの問題ではなく、奄美群島全体で議論されるべき問題である。

言うまでもなく、沖縄県民・普天間市民が長年負担してきた苦痛は大いに了察されるものであり、普天間基地移設の必要性は十分認識するところであるが、その前提には移設先とされる自治体との合意形成が最低限必要であり、このような重大な問題において、在民主権の国家による法的な強制収容があってはならないものとするものである。

よって、本議会は、米軍普天間基地の徳之島移設案に断固反対するとともに、米軍基地の移設という新たな形での負担を再び奄美群島民に一方的に課することが繰り返されないことがないよう、強く抗議するものである。

以上、決議する。

平成22年3月9日 伊仙町議会議長 常 隆之

米軍普天間基地徳之島移設反対1万人集会



歴史的な集会に
伊仙町議会も参加しました



基地移設反対に向けて
一万五千人の頑張ろう三唱

編集後記

1月の議会の任期による議会議員選挙におきまして、町民の皆様方の深いご理解とご判断によって14名の新しい議会議員が誕生しました。

選挙におきまして、無投票であったことに対し改めて責任の重さを痛感いたしております。このことを私たちは謙虚に、そして真摯に受け止め、町民の負託に心えてまいります。

私たち議会広報編集委員会も新たな構成員となりました。大変重要な任務ですが、しっかりと頑張つてまいります。

議会活動は議会だよりを通して、町民の皆様に分かりやすく知らさなければなりません。紙面の関係上、特に一般質問の内容等につきましては、不十分な点が多々ありますが、ご理解頂きたいと思っております。なお、議会の詳しい内容につきましては議会議事録がありますので、正しく確認ができますのでご利用頂きたいと思っております。

今後も議会に対する御意見、ご要望等をお寄せ頂き、活発な議会活動ができますようご協力をお願いいたします。

(美島 盛秀)

広報委員会

- 委員長 美島 盛秀
- 副委員長 清水喜玖男
- 委員 琉 理人
- 委員 前 徹志
- 委員 伊藤 一弘